

### —概要—

病院職員5名(診療情報管理士5名)が一丸となり病院内の課題に対処すべく次の業務に取り組んだ。

1. 診療記録に関する運用調整管理
2. 紙診療録の保管運用等、病歴室の業務調整管理
3. スキャナ業務に関する調整管理
4. 診療記録の点検、監査、精度改善
5. 退院時要約に関する調整管理
6. 傷病名コーディング(国際疾病分類に基づく)
7. 統計作成と分析(国際疾病分類に基づく)
8. 診療情報等の二次利用に対する支援
9. 指標作成(後発医薬品、看護必要度、在宅復帰率等)
10. 患者に対する診療情報提供(診療録開示)
11. DPC コーディングの精度管理
12. DPC コーディングの適正化支援
13. DPC データ等を用いた分析及び報告
14. DPC 制度にかかる調査
15. 院内がん登録全国集計
16. 地域がん登録
17. 大阪府がん診療拠点病院に関連する業務
18. キャンサーボード実施支援
19. 臨床試験情報の web 登録(情報検索システム)
20. 新任職員への診療録等に関する研修
21. 情報セキュリティ研修(HI-UP 研修)
22. 傷病名マスタの管理
23. 電子サマリシステムの保守
24. クリニカルパスの運用支援
25. 地下倉庫の管理
26. 診療情報管理委員会(事務局)
27. がん治療検討委員会(事務局)
28. がん薬物療法検討小委員会(事務局)
29. DPC コーディング適正管理委員会(事務局)
30. クリニカルパス委員会(事務局)
31. 災害時医療対策委員会(事務局)
32. 褥瘡対策委員会(事務局)
33. 情報システム委員会(委員)
34. 診療報酬及び DPC 適正管理委員会(委員)
35. 広報・年報編集委員会(委員)
36. 放射線部運営委員会(委員)

### —実績—

1. 退院症例における診療記録点検  
(退院症例数 10,324件)
2. 院内がん登録、地域がん登録  
2016年度登録症例数: 873件
3. 地域がん登録
4. 傷病名マスタ管理: 715件 更新
5. 診療情報等の二次利用に対する支援: 136件
6. 診療録開示対応(内容点検): 126件
7. 情報セキュリティ研修(HI-UP 研修)
8. 診療情報管理委員会事務局活動 抜粋
  - 1) 退院翌日から14日以内のサマリ記載率が90%以上維持するよう努めた
  - 2) 診療記録の運用調整
  - 3) 診療記録様式の作成と改訂
  - 4) 保管記録の整理(院外、院内)
  - 5) 診療記録等保管スペースの調整

### —今年度の成果と反省点—

2017年度は、目標であったスタッフの確保ができ、養成も順調に進んだ。異動等が発生しなければ安定した診療情報管理運営に繋がる。

診療情報等の二次利用支援の依頼も年々増加しており、十分貢献できていると考える。積極的な情報発信や診療記録の充実化については一定の成果はあったものの、十分とは言えず課題が残った。

### —来年度への抱負—

2018年度は、診療報酬改定や電子カルテシステム更新、病院機能評価の受審等イベントが多く、診療情報管理部門として注力したい。昨今ではデータ活用が重要視されており、電子カルテシステム更新においても二次利用部分にも重きを置いたものとなるように関わっていきたい。

その他、スタッフの養成、積極的な情報発信や診療記録の充実化についても引き続き目標とする。